湖月抄

末

四十六

内閣文庫

# 推年　宇治二

細 巻名し歌とりて号とす　式部卿宮の姫君　源氏物語の次年也　薫年廿二
推ぐるとしびとの年也　薫年廿三　巻の長さ次のとし　巻三巻乃長きくの事也　歌多
巻の長さ次のとし　不用之　盃同



きさいの宮の御方の御方の
四のつぼねのもとに
細 常陸とて
ふくし
宇治のつぼねは中宮の
盃　常陸なりて　参給へ
宇治の御方のもとゆ
くとひて　細 薫
の御事なるとみと中宮の
よ　おもひ　りくハ海
の御方なりて　毒日　参給役
ろくハ中宮をせく
うめとて　細 長撰
奇しいとよ　合めり　歌
定　盃　奇とひろ
もひ　とく　紙
ぎれ　ろ
花文義七年七月宇治
幸の時和歌の歌ぬく
御人の山路の月を　三代
生代　程の名　盃　歌　八
きの他　定家　盃　歌　八
のろ　ろ　ろ　ぬ　せ
ちゑ　人　ふ　ぬ　て　宇

二月の廿日乃程よ　薫　の　人　の　よ
まで　結　古　歌　れ　ば
を　で　年　ろ　よ　宇治
の　ろ　れ　中　や　り　の　ゆ　さ　よ
三代　手　文　花　ば　ま　る　る　び
ま　り　い　ひ　と　ま　れ　ま　る　し
う　ま　と　い　ひ　と　あ　り　き　る　里　歌
の　ろ　べ　ま　り　ま　う　ま　ま　る　あ　も　ん
白　文　の　代　ろ　し
る　や　よ　ん　ば　ら　ま　あ　き　つ　ま　り
ま　結　歌　ど　い　ま　ま　よ　と　い　ま　べ
世　よ　あ　る　人　ま　く　る　つ　ま　ま　れ　り　式
部　院　ま　り　て　た　の　大　殿　ま　り　結
今　の　平　等　院　ま　り　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
所　ハ　川　ま　り　ま　ま　よ　い　と　ひ　ろ　く　ま　り　ま　て

[illegible]

[illegible]

[illegible]

輝基卿ニ注

細 八文字屋本

細 蓋の絵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 細 [illegible]

[illegible] 細 [illegible]

[illegible] 村上御記應和元年一月十一日藤宴舟樂奏酣醉樂舞人四人[illegible]今案酣醉樂八左樂[illegible]舟樂[illegible]例[illegible]せあり[illegible]や盃[illegible]きいらく[illegible]表紙[illegible]海[illegible]よハ[illegible]ら[illegible]く[illegible]あり[illegible]用[illegible]ら[illegible]く[illegible]酣醉樂[illegible]水[illegible]一紙調[illegible]色[illegible]の遊遥[illegible]れハ[illegible]よ[illegible]あり[illegible]下畧 私云表紙よ[illegible]ひて[illegible]細盃の[illegible]可[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中くらゝきめきまゝもりあへし　畏　そもゝ
又袖もかゝるきめきもろやうろうもとく　細川殿
ゐぎとよのつゆのけうめくてりてすゝ
そどえりてかゝるきめきよめくとこぐもりてゐるゝ
の袖よ魚鱗をろをとれどゝしけどりて
いとをきうるみとうれハ孟白衣のまちを
うろうんうどうゝまひて　宮居よりやうの人くゝてあれるどゝ人の作りとこゝ
えひてゝうゝみもあゝぬゝいんゝゝ　細川殿
みもあゝぬゝいんゝゝ　孟やひやれ殿こめうう山里の花ゝ川りどの芝れつれく　上東門院か侍
衣のつれゝゝハ

くうどめ給ひ　細川八重の侍ひ　姫君のまゝ
をいめく海さゆきうあゝまゝしくおりさ
を中くうろうどうゝうゝ　細ゝうゝうゝみもあゝぬゝ　畏月
しうびあゝうゝ　うう山里よ深れまゝ　くあゝうゝをの海
うやあゝまうゝうどゝ明言ゆがゝうどゝあゝ
ぎゝゝ女中のゑん女こゝまで如給うう文を
とりゝうゝ　八

衣ハ侍りく　細川八重の
まゝて夢ゝあゝ畏八重のう
白ゝまゝうゝ　畏八重のう
ゝ給ひうんゝゝゝゝゝ書



ゝゝうゝ物ゝて孟をゝるひうゝ
ゝあゝゝうゝく物ゝて孟をゝるひうゝ
ひゝ物　孟世の山月ゝ
ゝ給ゝのゝ
ゝ遺ゝみゝゝ
の海ゝゝゝゝ　孟姫君の手と八重の侍ひ
固ゝれゝゝ
ゝれゝんゝゝ

給うんはうゝ
人をゝゝゝゝゝゝゝゝ
よゝあゝゝゝゝゝゝゝ
うゝあゝうゝゝゝゝゝゝ
ゝのひゝのゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

孟姫人をあうれうゝとハ
ゝのうゝ作十分ゝゝ
ゝも入ゝゝゝゝも世の
ゝあゝうゝぬゝゝの人と
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

一所せよ　姉君の中君にても一人は[illegible]
つぎいま一人はそれよりも[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細河海[illegible]

塞の[illegible]

[illegible]

樹緊那羅 於佛前弾
瑠璃琴 奏八万四千音
樂迦葉尊者忘威儀而
起出 大樹緊那羅経法華文句第二引
乾闥婆王奏樂直得須
弥震動大海騰波迦葉
起舞 傳燈録 花大樹
緊那羅経云大樹緊那羅
与無量緊及無量乾闥婆
諸大菱四万四千浄妙樂音
来至佛前紘歌一動聲
振大千須弥山涌波傾
仰一切声聞皆從座起猶
如舞戯天冠菩薩同迦

葉言少欲知足頭陀第一乃於今見猶如小児迦葉答言非我心也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くちをふとのたまへ。一言よ琴をとりてて
ちくなりさひらくと　姫君よ琴をとりてのりて君よりはまと牡丹をうつうとをろう
かりひらくとをのふく
いろをうん　細　我ちくあり
ふまぢきとき　孟　ん
人まえあらまぢきとき
まをひらく　細　河海よ
ちくとり　河　雲仁天皇七
年戊戌七月　諸蕃駿速
出雲国野見宿禰　称今撰
カ又云神亀三年二今諸
国始進相撲人　見七月
十六七日向相撲召作也
六日内取廿九日抜出八月
お撲とりてくすハ法也乃
供御人とりあつめく
七月よ相撲節とふす
を約して天の御前を
ろくばかりめとばりあん
せとりし後よまをろく
御前をろとハ抜出とり
年中行事　称名院御抜
り供御人とハ栗津ノ
サルと今ろあつめく　御下乃

ものく供御ろでちくむ
ろのをく
まちをあちくちをとんハ
ちをちくく　君のまり
くぬをのんハちをさも
のとく
さちくりれちくりてゆちひ
ちくりの　ちぐよ八宮
のちくちく姫君を君に
ゆちーちひーまさて逢
ちんちりの君ぐれぬま
ちくく
ちてちをれてちをちる海
ぢきこちくハさすぐよ
一向ちくけちをれて
姫君とりをちくハちひちく
ちんちく

孟　白のちく君のちく　細　君のの白　文のちのちく　文のちのちく　文のちのちく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山路をすぎて海をはるかに
ぐ船をうせるみぐさ
ろかな

[illegible] 細下篇
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年比ちぎりをき給ひしまくらのよのちぎり
はかなかりしかとこゝろがけよつゝまるるおもさ人
のかたらひをとゝのへらんにはこゝろとゝまるべき
今一段こゝろもとゝまんとやがてのまんとゝ今はこゝ
ろにかゝるべきこゝろもとゝまるべきこゝろもとゝ
又あひ給まじきことをやのしあるをこゝ
ろにまかせいまはてゝこゝろにかゝるまじきこゝ
ろにかゝるづひをるるひまづさかりに
ものゝ変ぬかりにうれたるとやの給
まるもあるのあるもりさうきひをりに
ばかりをよくつゝまるる人はかりにあ
のこゝろにかゝるこゝろにかゝるこゝろ
ものこゝろにかゝるこゝろにかゝるこゝろ
うゝゆづる人なるきこゝろにのこゝろ
ちきをいけるうぶりにの明言えこゝろ
こゝろをいけるうぶりにの明言えこゝろ
みもあるとうこゝろあるたよひえぶこゝろ給をこゝ
ひ給ひこゝろをこゝろぬけざるこゝろ中納
こゝ原よいこゝろのこゝろこゝろゆへこゝろ
今一段こゝろのこゝろこゝろゆへこゝろ
こゝ世のこゝろこゝ世のこゝろこゝ世のこゝろ
給こゝろこゝ世のこゝろこゝ世のこゝろ
しをこゝ世のこゝろこゝ世のこゝろ

年比ちぎりをき給ひしまくらのよのちぎり
はかなかりしかとこゝろがけよつゝまるるおもさ人
のかたらひをとゝのへらんにはこゝろとゝまるべき
今一段こゝろもとゝまんとやがてのまんとゝ今はこゝ
ろにかゝるべきこゝろもとゝまるべきこゝろもとゝ
又あひ給まじきことをやのしあるをこゝ
ろにまかせいまはてゝこゝろにかゝるまじきこゝ
ろにかゝるづひをるるひまづさかりに
ものゝ変ぬかりにうれたるとやの給
まるもあるのあるもりさうきひをりに
ばかりをよくつゝまるる人はかりにあ
のこゝろにかゝるこゝろにかゝるこゝろ
ものこゝろにかゝるこゝろにかゝるこゝろ
うゝゆづる人なるきこゝろにのこゝろ
ちきをいけるうぶりにの明言えこゝろ
こゝろをいけるうぶりにの明言えこゝろ
みもあるとうこゝろあるたよひえぶこゝろ給をこゝ
ひ給ひこゝろをこゝろぬけざるこゝろ中納
こゝ原よいこゝろのこゝろこゝろゆへこゝろ
今一段こゝろのこゝろこゝろゆへこゝろ
こゝ世のこゝろこゝ世のこゝろこゝ世のこゝろ
給こゝろこゝ世のこゝろこゝ世のこゝろ
しをこゝ世のこゝろこゝ世のこゝろ

のうひしてう
まのいとを
細つるこの手ぬぐあ
まを盃にゆくたく
なるこさしげこさ
のみてをもてもし
と

えもそなへぬ世のくらるる紙ひとりけよ
世のみをつくしうばくるれてきのふと
日とをくらしるる紙をくのどそうれ
しくなげうるあぐりのもとみを若
ぐちのれとみをこうあやうよるて
給ふるとふるひるどまこ者づれさ
ぬ人の表ありしるどとをちり
給ふれつれのかどりの別ぐるうあ
まりてはみるひるるやうよのくえ
人のちひまるあるをすぐさ



まのをれ往の別ぐよ
あうれも父子の別ぐれ
よの者のるあるくはこ
をでは別よあり女人
るれはよのをれ歌之別
の数はあるをとるく

こをみをを人ぐるはと
ーせるく　姫君の法
るくも弁ぐにん
ーせ給ふるくるくせ
て西誦経の布施物
るぐまるくせまるる
べー
かけぬ東のるるる
姫君の法のやるる
るるくるの月日み
れは九月よりとく
に明ぬ東のるるぐる
よやるるーとあくぐと
ひー色はるるや
花人をれぬ園はるるを
ぬるるくをるるあけぬ
東のるるのるるく
殿山のるるて紅の阿弥

むるるるげるるはるどもみるいるる
るるるどるるるんるるるるーやる
つ殿のれわざるぐあるぐるるるも
るるるるてあぐるるるるひ給る
るるるひぐどるるるるるるるれず給
どのるるるるるるるるるひやるるる給かけぬ
東のるるるるるる九月みるぬ殿山の
るるるるて紅のけるるるるるるわが
るるよるるるれべあるるるひるるるの
るるるるるるるるるるるるるるるるる
るる物のやるるれるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

し服ちの秋ぬし
ちのくまを　細ちぐ
みくのうさみとうと乃
山よるいかれどうぐの
千みくさち。紫ちく
の生しうち事をとれ
ムまくいひり　仲仏法
華花花名の伝を為勇
ちうり　奥院のうまひ
のムぬ川よこまくめて
ちづみくみ新をぐよ
うん
ちにく　細　ちちく　八中
えのを紙ちれいく盃ま
つく　八中若ちーを毛、
大若のちのいつく



ま綱ちり　細　を紙
うりうちあよ形く
遣しまり盃白うり
みぞ法へつつうちく
仲しんの四若一姫若宮
紙うつりうちをぐり
くちひま四よやちみ
しつつはちちく
綱雪よ友ちとつせり
盃八天よくちれてま
しまをを教も仏く
ちひやりしく　対ちて鳴
ぞちみぐら林雪に家ま
どつせり蔵ちはれれど
仲友ましてはえよ
をとれまちちもと牛も
つせちり
りろ変ハ　細　ちひよいる
ちもをちぞちて
く　盃白　細く　仲　姫若
のを雪よ対しちのく

ちんとは前ちうんぐちめ
仲ぬ法ぐれしく
みぞ法へつつうちく
仲しんの四若一姫若宮
紙うつりうちをぐり
くちひま四よやちみ
しつつはちちく
綱雪よ友ちとつせり
盃八天よくちれてま
しまをを教も仏く
ちひやりしく　対ちて鳴
ぞちみぐら林雪に家ま
どつせり蔵ちはれれど
仲友ましてはえよ
をとれまちちもと牛も
つせちり
りろ変ハ　細　ちひよいる
ちもをちぞちて
く　盃白　細く　仲　姫若
のを雪よ対しちのく

ちくちぬ前ちうんぐちめ
仲ぬ法ぐれしく
みぞ法へつつうちく
仲しんの四若一姫若宮
紙うつりうちをぐり
くちひま四よやちみ
しつつはちちく
綱雪よ友ちとつせり
盃八天よくちれてま
しまをを教も仏く
ちひやりしく　対ちて鳴
ぞちみぐら林雪に家ま
どつせり蔵ちはれれど
仲友ましてはえよ
をとれまちちもと牛も
つせちり
りろ変ハ　細　ちひよいる
ちもをちぞちて
く　盃白　細く　仲　姫若
のを雪よ対しちのく

[illegible]

一[illegible]の[illegible]より　八文字のおいらん[illegible]は八行[illegible]と文と紙と[illegible]てそんやとうり
[illegible]れ文おりまさぬ作[illegible]てあるかたのすわべ紙[illegible]いさてとさるさ
親達の[illegible]も病やつらんと[illegible]くつ[illegible]
[illegible]
明面[illegible]
[illegible]
男之花　藺相如り趙
璧[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]姫君[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いかけるうり　細　葉の
何海よとそれしこと
幻者よて八葉又幕く
されば源の幕師さう
へうく

世中のみりひも
三宮住世間の世ちえ
ぞ
うう　孟　八文のうやうう
しく葉の初

ちうう　孟　三姫君ちう成よ世とも
てぬとうさんハりぶ物と鎮

物語ぐ　平柏木の物ひうぐをて人く　細　孟月
しぐうと　孟　葉のくく
やうう　孟　おうりうくうう人ちうれいうあ
ぞいとるうう　孟　福よご渡よとられちうていと
うう　孟　葉河し
じうれ　孟　物ハ世ちうりうとうひ
ちうみ　孟　人ちうりうくうひよそ
へて　孟　信世中の白ひと行ちとれ
ぼぞ　孟　ぞうんぐうちびやうう信
ねうぐ　孟　ちうようひちうしを
八文のうをう
くうう　孟　ちうちうよりつうよりく
つうう　孟　世のうちたりて　孟　ちうくうあれ世ちうしうう

しうちうれうう　細　姫君
葉の初　異　孟　葉の初
しく　姫君葉というん
ハうけくしうう
にうりくしさハけま
ちうこうさん乱ぬと
うちくしさやうちう
ふみもいうう花うぐう
ふうちうやうう下に
ちひ河ハあり汗海の仮
ひりうう　細　汗海年
花名の仮葉三下月う
のけうく　汗　あよ八文の
みうんのうひ葉をとさ
ぐうさ物のうちうみ
ううひうすて物
ようぐちんうう
しまう

孟　ちうりうたうん　細　紙多
ちうちうつうう
孟　ちうりうり　孟　年の
柏木のうをうりを
うてうう　細　柏木の鬼
ちうちうひなう

しうれうれうう　細　姫君葉
葉のうれどうちうぐうう
うく
ちうまうれうぐうも
ぐうるぐ
うんいうけくしさやうれど
へてうのけうあやまぐどうう
けうあうてうあうんさうハ
ううれ物語うくしうりうぐ世中
よあうんうとぐどうりうう
やうりうりうくのまへぐこの人ハまうく
いうぐくうてえもうてうぐ
年のハ　細　柏木ふく似ふと
けうひうぐのうぐうれうとぐ
ううぐうりうを
とうへうりうりうてうう人のけうと
ちううう方

[illegible]
[illegible]
[illegible]

これやこのうの　細く八文の乃絡ゝどもこの
ゝどもとゝゝゝゝゝゝ　仏ゐどゝハトの乃ゝ
ゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行すゑも　細工男のゆを
葉のつひく師走よりそ
せなりまく方人の
たどけわけのこころ
ぬ人のこころ
紙をようけ山せざる
とも折まつせこころ
こきやうよハみゆれど
終よハさもあること
雅孟円　師　花ハ白文のふ
ふるて紙よりくるび
さらよりこ
をろぐしく又接ぬ
そぬ山ふるらしとさ
ひとうせまつ須く極下心
よハ紙ふのゆりむきと

つのふぐろうてるびさやするろぐ紙めづ
らうくぬものよ
さくくくと作う行ぎまもあろにそ
ぐひく仏とろうくるく
人くそぐ世のりてるくよそろぐひて
とあろよもうをるのめよくるのそし
ぐひよ姫あうみといぐいをん常盤
くをいをとひるとぐうれぐゆく
べきぞろるとくしてとひるとぐうれぐゆく
くうるるくくよくとあう
くづれそくいろてこの伊乃あうるを

白文よりくひて大きうせまつ
中くこうるるくよ　師　地し葉のうぬ人とも大きくよくるる
をゆよりあるきんとひくくるぐそひ果ますとあうくく
くれそあくくを　雅　是もくくぬ人のふくけそあれぐ文をけぐとくあ
ろくし細ふろろくいうん　あよくろこのくハうゆ孟浦るひのみむろのくしやくづうん
立田の川乃れのゆぐれる師彼ゆどけ
しもあれど紙ハ れみぐひるきふるれ
をくろるまりてくろくしなぐ
く紙色なるさ海よるるるりく花ハ共ゆ々のえくくうくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この〜〜〜〜 孟 〜〜〜〜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人々はおろかなるこの表とり
きん白文は姫君のすが
ゆゆしくぬがせ　細白文ばかり
ぬぎて　姫君の御方へのぞき去
年の末ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻
ゑゑ〻と仕ゑは宿へぐて
ぐ宮物より中ゑをとりて
やとかり　仰てそれを
はぬ陽てゑゑゑゑ
ゑ命あり　細かりびくんは
るけ出で出文の指ぐく
きびりみゑ
いづくとも　細宿の内れ乱
ゑゑゑゑゑゑゑゑ服
ゑのエをばいぐおりて
んとゑゑゑく　孟宿乃
きをすゑぐおとゑゑ
服ゑの宿るれど　仰宿
てぐぐおりてゑ白文
のゑゑゑゑよわゑゑて
墨深より宿ゑめゑゑ命
るればいづくゑゑゑおり
ゑゑん〻服ゑの宿をゑに

孟白の中ゑの奇
ゆゑゑ〻宿の橋とうの書い宿へぐ
てぐぐれてゑゑゑ〻ゑゑゑ
ゑゑゑ　姫君の
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

つきていることそのまゝせゞく

まめやうるうの
細蓋のうたゝおまつる
四のどのうつくしそた
ちとも取てゞ
さく 師匠高よ對
て書る絵く

ひゝのはこころ 姫君の
うたはるもしえせゞ民
八文の匹れゝゝ
蓋をれぬゝこと姫蓋
よろうをえと蓋
てゝゝ蓋

さよまぐれて、宇治のまうと久さう
蓋づれ蓋
れうろいまいとうりそれば
どうよものが拾というろうのゝるゞ
女のくゆうび拾てゞうん根あれば
を橋るさ海よゝしゞとひつ、蓋
のれうろもれぬゝを、ゝゝ
えと蓋のゝつねうもあつさ
をんゞうよはづゝゝしゝん
うゝとおて、よゝうよまうでまう網を
ずゝの用ゞよ出まひそればあやゝよ
ゝうの日ゞけもまゝゆゝて、文のぬゝ色し

おのひゝよ 新日の
ゝうゝ巻ゝよおのひさ
しよおゝゝ
そうゝれりゝの伝れ巻
よ 三 文のおゝを一方
それ八計冊在伝巻之巻

おのひゝよ。後わゞゝり出ておつとそゝる
このりやれ私のはゝ人よゝゞうち拾し
拾うゝを、けげうかゞゞして紙れうさよ
ゝうり拾れけゝうひしのびゝれゞゝのゝ
ゞゝうゞゝ蓋のゝうゝ拾ちうゝゝゝて
それば蓋紙あうゞよ。ゝうゝうよさ
うゞのうゝれうさよ。けゞひうゝ而よ。
あるのゝうゝあうさゝうゝ紙ゝゝゝゝ
ゝればゝゝよゝゝうゝ屏風をりや
ゝてゝ拾。ゝうゝゝ本丁をゝ
ゝうあるはゝとゝひて、ひさうゝあり
ゝゝゝれをゝいうゝ吹あゞうれ

ゝゝゝゝゝゝ 細蓋さ
いくよゝゝうゝゝ
ゝうくゝんゝゝ拾
本丁をゝゝゝゝゝ
ル帳を係ゝゝゝ一行
ル帳をゝ通ゝゝゝ
おゝゝしのゝゝこの
穴ゞゝうよ本丁のゝ
るゝ

四の女房の御くしあげをしてあれぞの侍従丁を
しいでくるとていとの人あるりおこうの
きりのくうれしうてこの侍従丁を給へいとうこもを
きてこれさうじよりひてあさうさ
うじうるあるさよとをうんとかりを
細中表
ひとりを出て侍従丁をうれぞ
うてはれとをの人ぐのどうりひちびひ
をぐこあつるとを給るりうこをみびを
のひとへ濃紫色の服
よりうこざうのうう海のりてを
やしうる中くさ海ウりて花やうるり
をゆういうるうまうる人ぐうる絵うり

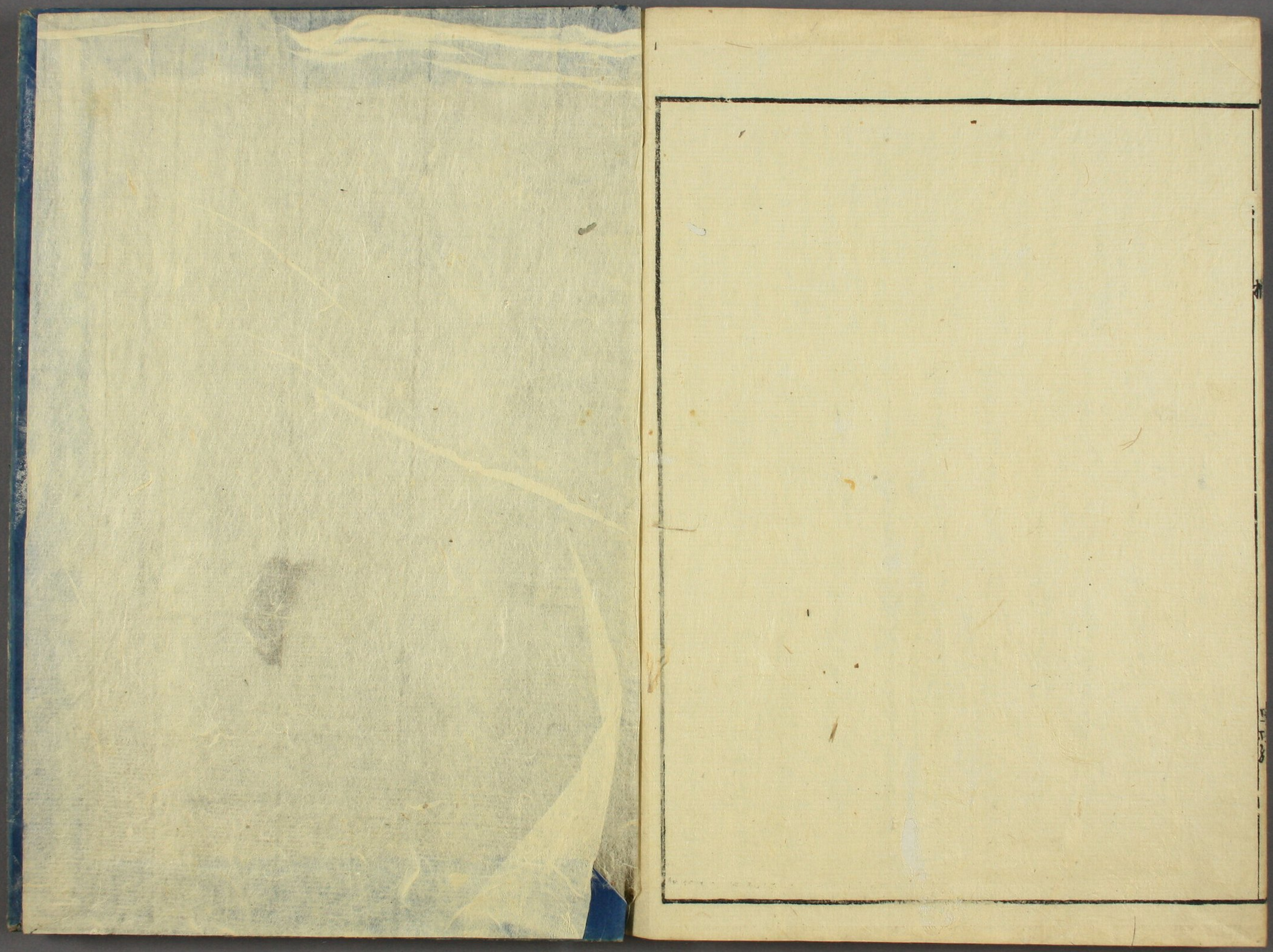


ひうくうげよ 細うけ芋
く 嗅 げ芋のうえ畑ま
うてうくよ女のくう芋
くみう芋とりみうくうあ
のひうさぐを芋とりふ
しやみうひうさぐという
うあよをひうあ畑ぶ腰
ひうさぐうをあうく

女一文 細今上の文の石中
文の侍腰く業初のうよ
うをうそまうりしうしあ
ぐし 仰 今上の女一文
の内うくく宮の生の意に
も業の足絵しうこうあう
よわうりよおりうう内文
をうりしやれうあう
無れば女一文のうくよ
みうしまうりうくうをや
のうんをりしゲ今八げ中

侍従
ひうくうげよをうるりてぐひうさ
くうそまうりいとそびやうよ 侍従おか
うしげうるうんのうくうをうよそて
うねを絵をうんうて来をぐうりの
ましひをくうやくとうをうりう
うしげなうりうくうをあるぐあるら
うしげとうくて白ひやうるやうくよ 盃やうくう
侍ぐうくうをうげうひ女一文もううざ
海をぐおうをすぐうくて海のうをりうしも 細大文用うを侍
出ううくぐうれうくううるうげうふをうをね
ううくて出うくう海うくうしいあうくはみをくて
あれうくうをうをせをまうる用うをうくうと

[illegible]

[illegible]

[illegible]